

内分泌・代謝内科研修プログラム

I. 研修について

糖尿病は有病者 1,000 万人、予備群 1,000 万人に及ぶ代表的 common disease である。動脈硬化性疾患や悪性疾患、感染症、認知症、細小血管合併症の基礎疾患として重要であり、循環器内科、腎臓内科、脳神経外科、脳神経内科、皮膚科、整形外科、血管外科、眼科など多くの科の治療と関わりを持っている。甲状腺疾患の罹患数は 500～700 万人とされ、治療が必要な患者は約 240 万人とされるが、実際に治療を受けているのは約 45 万人であり多くの未治療患者が存在する。臨床医として活躍するためにはこれら common disease を正しく診断し治療できることが不可欠である。

内分泌・代謝内科での研修は、臨床医の基礎として重要な意味を持つばかりでなく、medical science の基礎を学ぶ機会となる。

当科での研修では、一症例、一症例を丁寧に考察し、目標を達成できるようプログラムされている。

II. 研修の到達目標

内分泌・代謝疾患の中で日常的に遭遇することの多い糖尿病(1 型、2 型、緩徐進行 1 型など)、甲状腺疾患(バセドウ病、慢性甲状腺炎、甲状腺良性腫瘍、甲状腺癌など)、脂質異常症、肥満症、高尿酸血症、内分泌・代謝疾患に関係した高血圧、骨疾患、慢性腎臓病、さらには最近 CT 検査の普及によってしばしば発見される副腎偶発腫や下垂体疾患、副甲状腺疾患など割合頻度の高い内分泌疾患などの診察法、検査計画の立案とその実施方法を研修指導医の指導・監督のもとに習得する。さらにこれに基づき診断を確定し、診療方針を立てそれを実施する方法を習得し、臨床医として必要な内分泌・代謝疾患の基礎的診療能力を身につける。経験症例によっては学会発表経験を持つこともできる。

III. 診療科情報(医師数・学会認定医・専門医・指導医)

[こちら](#)をご参照ください(当院HP診療科ページに移動します)

IV. 施設認定

[こちら](#)をご参照ください(当院HP病院概要ページに移動します)

V. 臨床研修指導医講習修了者数

2 名

VI. 1 週間の研修例

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務 外来予診	病棟業務 外来予診	病棟業務 外来予診	病棟業務 外来予診	病棟業務 外来予診
午後	病棟業務 甲状腺エコー	病棟業務 甲状腺エコー	頸動脈エコー	糖尿病教室 甲状腺エコー	甲状腺・頸動脈エコー
その他	カンファレンス		カンファレンス		